



行灯でライトアップされた町並みを歩く人々

### 変わらぬ名月と町並みの美しさ 「八日市・護国町並行灯の夕べ」

中秋の名月の9月10日、「八日市・護国町並行灯の夕べ」が伝統的建造物群保存地区内で行われました。例年の「八日市町並観月会」は中止となり、小規模になっても町並みの風情を味わってほしいと同実行委員会が企画。手作りの行灯約300個を通りに並べて、美しい町並みを照らし出しました。浴衣姿でそぞろ歩く人の姿もあり、来場者は一味違う秋の夕べを楽しんでいました。



田中さん(中央)とJICA四国の皆さんが来庁

### 内子町の田中さんが青年海外協力隊員に—— ベトナム出発前に町民の皆さんに決意を表明

国際協力機構(JICA)の青年海外協力隊員となった田中恵さん(内子9)が9月15日、出発のあいさつのため町長室を訪れました。田中さんは2年間、理学療法士としてベトナムの病院に派遣され、現地のリハビリテーション全般にかかる能力や技術の向上に取り組みます。学生時代から国際協力に興味があったという田中さんは「患者さんの気持ちに寄り添った支援をしたい」と決意を語りました。

### 大雨と大地震から命を守る連携を確認 7,000人が参加した大規模な防災訓練

「愛媛県総合防災訓練」が8月27日、内子運動公園総合グラウンドを主会場にし、町内各地で行われました。内子町での開催は25年ぶり、内子町の消防団員や役場職員をはじめ、県内の各自治体や消防、自衛隊などから約7,000人が参加。大雨と地震が複合して発生する想定の大規模な訓練となりました。

主会場では土砂が流入した家屋からの救助活動、サブ会場の五十崎自治センターでは、新型コロナウイルス感染症の感染対策をした避難所の開設・運営の訓練を行いました。また災害現場の様子を災害対策本部に伝送する手順も確認。情報伝達訓練では、高速通信を限られたエリアで利用する「ローカル5G」や、災害用衛星通信システムなどの新しい技術が使われました。

小野植正久町長は「災害の備えは平時に行うのが重要。今回の訓練で関係機関との連携を確認できた。しかし公助・共助には限界があるので、皆さんにも備蓄品の準備や避難経路の確認など、いつ起こるか分からない災害に日頃から備えてほしい」と呼びかけました。



1\_救出作業の手順を確認する消防署員 2\_防災ヘリによる救出訓練。屋根に取り残された人をロープで釣り上げた 3\_現場救護所で多数の傷病者に対する初動対応活動を行った 4\_重機などで土砂を除去し、道路を復旧する訓練



1\_林純司教育長から優勝トロフィーを受け取る藤岡あかりさん 2\_大会出場者と司会進行を務めた生徒、英語発表をした内子高等学校、同小田分校の皆さん。大会終了後に記念撮影

### 「第20回内子町中学校英語弁論大会」 世界に伝わる言葉で、今の思いを表現

20回目を迎えた「内子町中学校英語弁論大会」(内子町教育委員会・(協)内子町国際交流協会主催)が9月22日、内子自治センターで開かれました。この大会は生徒たちの国際理解を深め、英語力を向上させることを目的に毎年行われ、今年は町内の4校から8人が出場。将来の夢や家族への思い、頑張ってきたことなどについて、緊張しながらも英語でしっかりと意見を述べました。

審査委員長の愛媛大学准教授・三浦優生さんは、一人一人に感想とアドバイスを伝えた上で、「熱意の伝わるスピーチに感動した。準備や練習など、やってきたことの積み重ねが、きっとこれからの力になる。明日からも頑張ってください」と優しくエールを送りました。

#### 【大会結果】

1位	藤岡あかりさん(内子中3年) 「With Kitsun」
2位	上田梨代さん(内子中3年) 「My Dream」
3位	清遠玲那さん(五十崎中3年) 「My treasure, Uchiko」

### 「内子町の皆さん、はじめまして」 新しいCIRのジェニファーさんが着任

内子町の新しい国際交流員(CIR)のジェニファー・ナーゲンラウトさんが8月29日、町長室で就任のあいさつをしました。ジェニファーさんはドイツ・バイエルン州出身。趣味は山登りや自転車、日本のホラー映画も好きだそうです。流ちょうな日本語で「早く皆さんに会いたいし、いろいろな経験をしたい。見かけたら気軽に『ジェニー』と声をかけて」と話し、目を輝かせていました。



初対面したジェニファーさんと小野植正久町長

### いいモノ、いいコト、いいヒトいっぱい 手仕事の技が光る五十崎のクラフトフェア

地域の素材や伝統の技から生まれる逸品が並ぶ「IKAZAKIクラフトフェア」(五十崎商工連盟匠人会主催、成田幸子委員長)は8月27・28の両日、五十崎風博物館で開かれました。町内外から19社が参加。スプーン作りなども体験でき、来場者は職人技のすごさを肌で感じていたようです。成田さんは「年々にぎやかになり、過去最多の出店数。お客さんとも楽しく交流できて良かった」と笑顔でした。



スタンドグラスアクセサリー作りに挑戦